

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年10月9日

【評価実施概要】

事業所番号	4790500054
法人名	社会福祉法人 善隣福祉会
事業所名	グループホーム愛誠園
所在地	〒901-2221 沖縄県宜野湾市伊佐2-1-6 (電話) 098-890-3510

評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成20年9月22日

【情報提供票より】平成20年8月25日事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・(平成) 19年 10月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9人
職員数	8人 常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	7階建ての	地下1	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1200 円

(4) 利用者の概要(8月25日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	60歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	海邦病院 宜野湾記念病院 同仁病院 花城歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは静かな住宅街に立地し、採光の良いバリアフリー住宅で障害が重くなっても介護負担軽減が図られるよう配慮されている。母体施設との連携が緊密に取られ、看護師巡回の実現により利用者の定期的な健康管理が行われている。管理者を中心とした定期的な会議やミーティングにより、職員同士が共通の思いを把握し、利用者一人ひとりに対して丁寧な声かけや、本人の意志の尊重というホームの理念の実現に向けた熱意が十分に伺える。食事の献立には職員と利用者が共に関わり、同じテーブルで職員と利用者が一緒に食事を楽しんでいる。その事により食後の口腔ケア、排泄がスムーズに行われている。今後はホームの理念を地域で実践されるよう、地域住民を巻き込んだ災害対策実施へ向けた協力体制作りの取り組みを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めての外部評価となる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価項目毎に職員全員が自己評価を行い、ミーティング等で全ての項目を確認しあった。特に理念については職員間で日々のケアの振り返りを行い、「理念を貫き通す」という姿勢で利用者を支援している。</p>
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<p>市からの助言により4ヶ月毎の開催(これまで2回開催)となっており、委員からはホームの状況等についての質問が寄せられ、議題は主に事業所からの情報提供となっている。管理者は、「今後地域との協力体制作りに取り組み、自治会との交流等を通し認知症について地域への啓蒙活動に力を入れたい」と考えている。</p>
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	<p>管理者は、家族の面会時に意見を言える様な雰囲気作りに努め、電話等で利用者の状況をお知らせしたり、行事等の写真を掲示する等の取り組みを行っている。家族からの申し立てにより、利用者の状態改善に向け職員間で話し合いを積み重ねケアの見直しを行った結果、改善が見られた。「まだ取り組みが不十分な部分もあり、今後も引き続き課題として検討していきたい」と管理者は考えている。</p>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>ミニデイサービスや綱引きへ参加し、自治会へも入会しているが、自治会活動を通し地域の人たちと交流するまでに至っていない。「開所1年目を迎え、自治会活動への参加により地域住民との交流を図ると共に、近隣の保育園、公民館とも交流を深めたい」と管理者は考えている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「意志及び人格、人権を尊重し地域の中で安心して、自分らしく生き生きと生活をする」となっている。管理者、職員は「利用者が地域の中で安心して暮らせるにはどうしたらいいか」をテーマとして意見を出し合い、検討を重ね理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は日々のケアの振り返りで理念を確認し、共有に努めている。管理者はミーティングの中で、理念をケアの中でどう実践できているか確認し、家族へも面会時を利用して繰り返し伝えている。	○	職員間での理念の共有化は図られているが、地域との交流への取り組みはこれからの課題となっている。今後は保育園との交流や自治会活動などへの参加により、地域を巻き込んだ理念の実践への取り組みを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ミニデイサービスや地元の綱引き等の地域活動に参加しているものの、それ以外の地域との交流は見られない。	○	新年会への参加、自治会行事への参加、保育園や地元婦人会との交流、更には運営推進会議の委員を巻き込んだ積極的な地域との交流が図られるよう期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は職員に問いかけ全員で課題を出し合い、項目全てを検討してきた。評価項目を確認する事で既に改善されているものもある(看護師の定期的な巡回等)。職員は評価の意義について、利用者のケアの質向上につながる事を十分認識し理解している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の助言を受けてこれまでに2回開催されている(4ヶ月に1回の開催)主に事業所からの情報提供に留まり、今のところホームのサービス向上につながるような意見は委員の方からは聞かれない。		地域へ向けた協力体制作り(ホームの利用者と一緒に避難訓練に参加する等)を進めるためにも、積極的に外部評価を公表して活用してほしい。また今後は、評価の取り組みや課題についても、委員の方から意見を挙げてもらえるような会議を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームから市の担当者に直接面会して相談したり、あるいは担当者から助言してもらった事はあるが、具体的な連携は見られない。		地域包括センターと関わる事により、ホームの役割、機能を地域へ還元し(認知症予防教室の講師を担当)、今後は市の担当者との連携が築けるよう期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族が面会に来られる時、利用者の状況を報告している。また電話を利用して報告する事もある。ホームの壁には行事等の写真を掲示し暮らしぶりをお知らせしている。		現状の報告形式に加え、情報交換ノートを作成し、今後のサービスの向上に向けて活用されるよう期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に声かけし、意見を言ってもらうような雰囲気作りを心がけている。また玄関には意見箱を設置しているが、具体的な取り組みがまだ不十分である。		これからの家族との信頼関係づくりのために、情報交換ノートや行事への招待など、日常的に家族から意見を言ってもらえるような仕組みづくりを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム開設間もない時期であり、母体施設への人事異動は1人あったが、特に利用者、家族からの不安の声は聞かれない。管理者は事前に利用者に説明し、不安軽減に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員はグループホーム連絡会の研修会や講演会へ参加し、意見交換及び情報交換等を行い、学習を深める機会を得ている。事業所内で研修内容の報告会を持つ事で共有化が図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との会議へ参加したり交流を行うことで、お互いの情報交換を行い、それを日々のサービスの質向上に役立っている(「よい点は真似をしよう」)。管理者は計画作成業務と兼務しており、会議などに参加する時間の確保が困難な状況にある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	現在、在宅からの方と施設からの方が入居している。いずれの利用者にも、体験宿泊や家族と共にホームを見学する等ホームの雰囲気馴染めるようにしている。その時には、家族の面会の機会を増やしたり、家族と相談しながら不安軽減を図る取り組みをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から方言を覚えてもらったり故郷の話を聞くなど利用者との心の交流が図られている。また天ぷらの作り方を覚えてもらう等、共に支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の把握が困難な方には、家族の訪問時に家族との対話及び情報収集をし、家族の協力を得ながら把握に努めているが、取り組みが不十分である(庭の散歩を日課としている利用者は、職員と共に散歩を楽しんでいる)。	○	管理者は、「本人の思いや意向が自己表出できるにはどのようなケアが求められるのか」という課題に職員と共に取り組んでいる。意思疎通が困難な利用者には、言葉やしぐさ等から本人の思いを確認したり、家族の協力を得ながら把握できるよう努めており、今後も更なる努力を期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者は、計画作成業務を兼務しており、計画作成に当たり家族からの利用者の情報を収集し介護計画に反映させている。ミーティングの中で職員から介護状況報告を受け介護計画を作成している。家族は6ヶ月に1回計画の見直しに参加している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族からの情報(口臭が気になる)をもとに、定期的な見直しを待たずに介護計画の変更が行われている。その際に職員全員で改善策(口腔内の清潔保持)を検討した結果、利用者の状況改善が見られた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	管理者は、利用者や家族の不安軽減の為に、車椅子利用者の病院受診の送迎、馴染みの美容室への送迎、デイケアへの送迎等の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と共に受診対応したり、家族が対応した場合はかかりつけ医へ事業所内での情報メモを準備して、利用者の状態に関する情報を提供している。また母体施設からの看護師派遣により適切な情報が提供でき、適切な医療支援につながられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、かかりつけ医と将来に向けた話し合いをもたれている利用者があるが、他の利用者に関しては職員間での話し合いは行われていない。	○	終末期に向けた職員研修を実施し、また家族の意向に対して丁寧に対応しながら、今後ホームとしての方針を医療連携も含め確立されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護規程により、個人記録は事務室内の鍵付きの書棚に確実に保管されている。居間に腰掛けている利用者のトイレ誘導に対し、職員はさりげなく近づきそっと声かけし、プライバシーに細心の注意をはらっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「部屋で静かに過ごしたい」という利用者には、本人の思いを理解・尊重し、一人になれる時間を保てるよう配慮している。また外出の好きな方には、職員が付き添い一緒に散歩をしている。共有空間においては、職員と利用者が会話を楽しむ姿も見られる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の準備、調理の下ごしらえを職員と一緒にやっている。食卓では馴染みの椅子に座り、お互い声をかけ合い職員と共に和やかな雰囲気の中で食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在入浴拒否の利用者は無く、利用者全員入浴を楽しんでいる。回数や時間を一人ひとりに合わせて支援している。浴室は広く、シャワー、浴槽、手摺りが設置され、清潔感が漂い安心して入浴が楽しめるよう配慮されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の特技を活かせるよう支援している。書道の得意な利用者の作品が展示され、折り紙の作品も飾られている。歌の好きな利用者は歌を歌い過ごしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームは地下1階にあり、外出するには階段、エレベーターを利用している。ベランダが広く、踊り場には菜園が作られ、職員は利用者が外気と触れる機会を増やせるよう工夫している。庭を見るのが好きな利用者に対しては、職員と一緒に散歩する等本人の思いに寄り添っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は明るく広々とし、花が飾られ安心して出入りが出来るよう工夫している。日中は鍵をかけることなく内側から押しボタンで開くようになっている。夜間は防犯上朝6時ごろまでは施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署への直通のオンコールなど、消防設備は設置されているが、ホーム開設以降避難訓練等は行われていない。	○	利用者の安全の確保の為に、災害時対応の体制作りとして地域の協力は不可欠である。今年度中に災害計画を立てて消防署と連携を図り、早急な避難訓練の実施が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量チェック、水分摂取チェック、毎月の体重測定を確実に把握して健康管理がされている。またカロリー制限や塩分制限のある利用者に対して、詳細な食事量の記録を行い、職員間で情報を共有して食の支援につなげている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は採光の良い落ち着いた空間となっている。中心にはテーブルが置かれ、利用者同士和やかな表情で談笑している。居間からは通りの木々が見渡せ季節感を感じる事ができる。玄関脇に1人掛けの腰掛が置かれ、好みの場所で過ごせる様な配慮がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、タンス以外は利用者の好みや馴染みの物を持ち込み、壁には家族の写真、時計、カレンダーが掛けられている。入り口は手作りの表札やクラフトなどでレイアウトされ、個性豊かな居住空間となっている。		